

子ども家庭支援センターにおける 自然遊びプログラムの効果について

特定非営利活動法人マザーツリー自然学校（東京都）

<http://mothertree.michikusa.jp/>

取組の目的・背景・沿革等

🍃 地域の環境や状況

江東区は親水公園や都立の公園がいくつもあり、また、運河も多く、水辺と緑を身近に感じられる地域である。一方で臨海部ではオリンピック・パラリンピック開催に向けた開発が進み、未来型の都市整備が行われているところである。

🍃 取組の経緯・背景・理念等

大規模マンション高層マンションの開発により子育て世代の転入が多く、知らない土地での子育てが孤立しないよう、親子が少しでも多く外に出るきっかけをつくるため、また、こどもの健やかな育ちのために、区の子ども家庭支援センターと協働し、自然遊びプログラムを行っている。

取組の概要

🍃 取組の内容

子ども家庭支援センターとの協働で、近隣の公園を活用し、真夏を除いて定期的にプログラムを開催している。主な対象は0才児から3才児の親子で、公園をのんびり散歩しながら、親子がその日の自然と出会い、触れ合って、遊びにつながっていくよう、ナビゲートしている。

🍃 施設や場の特徴、プログラムの特徴

都市部ゆえ地面が舗装されている公園が多い中、あえて土が残っている公園を選んで活動している。土があればそこには草が生え、生き物が棲み、体験を通して自然の循環やいのちの循環を学ぶことができる。小さな子どもたちはでこぼこした土の上を、体のバランスをとりながら一生懸命歩いて、たくましくなっていく。

その背景には、こどもには自然と触れ合っほしいけれど、実際に何をどうしていいのか分からない、という親の声がある。親自身が自然体験、自然遊びを経験してきていないこともあり、そんな保護者と足下の草花や土、生き物、木の実や落ち葉などに目を向け、親子で一緒に遊ぶことで、次の公園遊びにつながるよう、また、プログラムをきっかけにこどもの自然遊びの幅がもっと広がるよう、心掛けている。





実施体制について

プログラム実施に当たり、参加者の状態を見極めるスキル、自然の中で起こる様々なことに臨機応変に対応できる柔軟さ、親子に寄り添う言葉掛けなどは実際に経験を積んでいく中で研鑽を図っている。

安全性への配慮

公園という公共の場を使用していることから、捨てられたタバコの吸い殻などに子どもたちが触れることのないよう、プログラム実施 30 分前に活動予定のフィールドのゴミ拾いを必ず行っている。

地域機関・団体との連携

江東区子ども家庭支援センター

取組による効果

子供・保護者への影響

プログラムをきっかけに、保護者は身近なところにも自然があふれていることに気付くようになった。そして、ブランコやすべり台でなくても、子どもたちはドングリや小枝などで楽しく遊べると、公園に対する意識が変わるようである。子どもたちも体験を重ねるにつれ、自然との付き合い方も大胆かつ上手に、また、遊び方も創意工夫にあふれ、のびのびと成長している。

地域社会への影響

こどもの外遊びを促進し、健全な育ちにつなげることで、地域での子育ての支援になっている。また地域の自然を愛する気持ちを育むことができている。

取組を通じて全体的な所感

どんなに天気がいい日でも子ども家庭支援センターの室内で遊んでいる親子が気になっていた。継続的な活動で0才の頃から子どもを自然の中に連れ出すことができ、地域の自然に親しんでもらいながら、こどもの成長を見守ることができるのは、何よりうれしいことである。